

濱木 恵美

それでは、千葉市の平和啓発事業についてお話しさせていただきます。ご紹介いただきました千葉市役所市民総務課の濱木と申します。本日はよろしくお願いたします。

千葉市では、『考えよう 平和の大切さ あなたに伝えたい「戦争の悲惨さ」、「平和の尊さ」を』をスローガンに、次世代に平和の思いをつなぐ事業を行っています。千葉市の取り組みを知っていただくために、1「軍都」千葉市、2 千葉空襲、3 戦後の復興から平和都市へ、4 千葉市の平和啓発事業、5 課題と今後の方針 について、今日はお話しさせていただきたいと思ます。

本題に入る前に、千葉市のプロフィールについて簡単にご紹介いたします。(スライド①) 千葉市は千葉県の中央に位置し、一部は東京湾に面しています。東京都心や成田空港まで車で40分で行けるといいう好立地です。1992年(平成4年)に政令指定都市に移行し、6区が設置され、今年度は政令指定都市移行30周年を迎えました。現在は約98万人を擁する政令都市として、首都機能の一役を担う都市までに成長いたしました。



スライド①

<「軍都」千葉市>

そんな千葉市が、かつては軍都だったということをご存じでしょうか。軍都とは、軍の施設が多くある都市のことです。

明治41年に今の中央区の椿森に鉄道連隊第二大隊が移転してきました。第二大隊は、その後第一連隊になっています。(スライド②)これを始まりとして、中央区の椿森・弁天(現



スライド②

在の千葉公園付近)や、稲毛区の作草部・天台・穴川・小仲台等に多くの軍の施設が設置されました。交通の便が良く、軍隊の駐屯地として最適であるとアピールした地元の誘致運動も設置の大きな要因となりました。作草部に気球隊が移転した際は歓迎門が設けられ、住民 3,000 名以上が集まり歓迎したそうです。このように千葉市は軍都として発展しました。

鉄道第一連隊や気球連隊といった特殊な技能を扱う技術的な部隊や、歩兵学校や戦車学校等の軍学校等、前線部隊を支える後方任務に従事する部隊や教育機関が多いのが軍都、千葉市の特徴です。軍都はアメリカ軍の標的となったため、軍都として発展した千葉市は、アメリカ軍の攻撃を受けるようになっていきます。

<千葉空襲>

千葉市に対する空襲は数回ありましたが、特に被害が大きかったのは昭和 20 年(1945 年)6 月と 7 月の空襲です。

6 月空襲は、日立航空機千葉工場(現在の JFE スチール東日本製鉄所付近)を目標とした攻撃でしたが、被害地域は目標から外れた中央区の新宿・富士見・新田町、新町付近、現在の JR 千葉駅やそごう周辺から京成千葉中央駅周辺まで及びました。この空襲による被害は死傷者 391 人、被災戸数 415 戸でした。

7 月空襲は、7 月 7 日に攻撃を受けたことから「七夕空襲」とも呼ばれています。こちらは、千葉市街地を目標にした夜間の焼夷弾の投下による無差別攻撃でした。この空襲により、中心市街地の大部分が焼き尽くされ、死傷者 1,204 人、被災戸数は 8,489 戸に及びました。省線千葉駅、省線本千葉駅等の他、先にお話ししました鉄道第一連隊、気球連隊、歩兵学校等の軍事施設が被害を受けました。

<戦後復興から平和都市をめざして>

2度の空襲により、家屋の消失、物価高騰、食料不足等、市民生活は困窮を極めました。市民の英知と、たゆまぬ努力により、復興への道を歩み始め、現在の千葉市の礎を築きました。

戦後復興の例を挙げますと、気球連隊の格納庫が民間会社の倉庫に使われる等、軍の施設が平和的に利用されたり、かつて軍の演習場が置かれていた内陸部の開拓が行われたりしました。また、政府の「戦災復興計画基本方針」に基づき、戦災復興計画を策定し、国鉄千葉駅、京成千葉駅の移転や、道路、公園等の整備を行いました。復興事業は30年かかり、昭和55年（1980年）に完了し、街は大きく成長しました。

このように戦後復興を果たし、街が大きく繁栄できたのは平和がもたらしたものです。

その後、千葉市は世界の恒久平和を願い、平成元年（1989年）に「平和都市」を宣言しました。（スライド③）

戦後復興から平和都市をめざして

平和都市


平成元年（1989）2月28日
「平和都市宣言」

平成7年（1995）7月7日
「平和都市宣言記念像」設置

- ・ 千葉空襲と終戦50年にあたり
- ・ 空襲の被災地である京成千葉中央駅東口前に設置

平成21年（2009）8月3日
「平和首長会議」加盟

- ・ 平和都市宣言20周年



平和都市宣言記念像
「FUTURE SUPPORTERS」
未来を支える人々
（製作者 関正司氏）

政令市30周年

スライド③

平和都市宣言後には千葉空襲および終戦50周年にあたり、平成7年（1995年）7月7日に、平和都市宣言のシンボルとなる記念像を、空襲の被災地である京成千葉中央駅東口前に設置しました。これはデザインアイデアの一般公募により選ばれた作品で、高さ10メートルのステンレス製の像は、人々が互いに尊重し、信頼し合いながら支え合う姿を表現しています。千葉中央駅をご利用になった際は、是非ご覧いただき、平和について考えるきっかけとしていただけたらと思います。

また、平和都市宣言から20周年の平成21年（2009年）には、平和首長会議に加盟しました。平和首長会議は、「持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン」を策定し、その目標の一つとして「平和文化の振興」、つまり、市民一人一人が日常生活の中で平和について考え行動するという、より根源的に重要な「平和文化」を市民社会に根付かせ、平和意識を醸成することを掲げています。

千葉市においても、同様に、市民の平和意識を醸成すること、特に若い世代の方々に戦

争の悲惨さと平和の尊さを理解していただくことが重要な課題と捉え、平和啓発事業を行っています。

<千葉市の平和啓発事業>

では、ここからは千葉市が実施している平和啓発事業についてご紹介いたします。こちらが千葉市で実施している主な平和啓発事業です。(スライド④)

『千葉市空襲写真パネル展』

まずは、「千葉市空襲写真パネル展」です。市民の皆さまに戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えていただくため、毎年7月から8月に各区役所、きぼーる、そごう千葉店等、市内 11 カ所で実施しています。このパネル展は、昭和 62 年から実施しています。(スライド⑤上)

『平和の折り鶴送呈』

平和の折り鶴は、市民の皆さまから平和への願いを込めた折り鶴を募集し、広島・長崎両市で行われる平和祈念式典に向け送呈しています。今年度は約 20 万羽集まり、両市に 10 万羽ずつ送呈いたしました。送呈前に「千葉空襲写真パネル展」で展示もしています。写真は、きぼーるの会場に展示している様子です。(スライド⑤下)



スライド④

千葉市の平和啓発事業

千葉市空襲写真パネル展

- ・ 毎年7月～8月
- ・ 市内の公共施設・商業施設11か所で開催



きぼーる会場

平和の折り鶴送呈

- ・ 平和への願いを込めた折り鶴を募集
- ・ 広島市・長崎市の「平和記念（祈念）式典」に向け送呈
- ・ 令和4年度は約20万羽



折り鶴のパネル展展示



スライド⑤

『戦跡めぐりウォーキング』

「戦跡めぐりウォーキング」は、千葉市の戦跡に詳しい講師とともに、近隣の千葉公園内等の戦跡を徒歩で巡るイベントです。(スライド⑥) 写真は、千葉公園にある演習用トンネルを見学している様子です。今年度は11月26日、土曜日に開催予定でしたが、雨天のため中止となりました。

千葉市の平和啓発事業

戦跡めぐりウォーキング

- ・ 講師と共に千葉公園内などの戦跡を徒歩で巡る



(↑) 戦跡めぐりウォーキング
(←) 市内の戦跡一覧



スライド⑥

『平和アニメ上映・戦災体験講話会』

次代を担う若年層を対象とした事業としては、夏休み中に平和に関するアニメの上映と、空襲体験者の講話会を実施しています。(スライド⑦) 戦災体験談については、千葉空襲および終戦後 60 年にあたる年に DVD 『千葉空襲 戦災体験談 平和の道しるべ』を制作しています。空襲や学童疎開、勤労働員、引き揚げ等について、10 名の市民の方が戦争体験を語っています。こちらは千葉市のホームページから動画が見られる他、DVD の貸し出しも行っています。

千葉市の平和啓発事業

平和アニメ上映・戦災体験講話会

- 平和に関するアニメ映画の上映
- 空襲・戦災体験者の講話

広報チラシ(→)
戦災体験講話会の様子(↓)

2022年7月16日
10:00~12:00(開場 9:45~)

■アニメ映画上映
■空襲・戦災体験講話

生涯学習センター
地下1階 小ホール

先着 30 名(先着順)

千葉市役所 市民総務課 TEL.043-245-9154 FAX.043-245-5155
E-mail: komyu@city.chiba.lg.jp

政令市30周年

スライド⑦

『戦災資料の収集・展示・貸出』

戦争の記憶を後世へ伝えるため、戦災資料なども収集し、一部は中央コミュニティーセンター 4 階ホール、花見川区役所 1 階、美浜区役所 1 階において展示しています。(スライド⑧) 戦災資料や展示パネル、平和アニメの DVD については貸し出しも行っており、学校等での平和学習にご利用いただいています。



スライド⑧

『平和啓発パンフレット「考えよう平和の大切さ」の発行』

他には、平和について考え、平和の大切さを理解し、世界平和への認識を深めてもらうため、平和啓発パンフレットも発行しています。（スライド⑨）こちらは、千葉市の各区役所、公民館等で配布している他、ホームページでもご覧いただけます。



スライド⑨

パンフレットでは、若い世代の方々に戦争の悲惨さと平和の尊さを理解していただくため、過去の本市の戦争被害だけでなく、現代の世界における紛争と、同じ若い世代でもその被害を受けている人々が多数いることを知り、より身近なものとして実感していただきたいと考え、世界の紛争と難民に関する写真についても掲載しています。

千葉市で実施している主な平和啓発事業は以上です。

<課題と今後の方針>

最後に、現在の課題と今後の方針についてお話しいたします。

戦争体験者の高齢化によって、戦争体験や平和の大切さを語り継ぐ機会が減少し、戦争に関する記憶が風化していくことや、若い世代への平和啓発をどのように推進していくかが現在の課題となっています。(スライド⑩)


課題と今後の方針

課題

- 戦争に関する記憶の風化
- 戦災資料の劣化や老朽化
- 若い世代への平和啓発の推進

今後の方針

令和7年（戦後80年）
平和関連事業の総合サイト
「(仮称)デジタル平和資料館」開設を検討



スライド⑩

そこで千葉市は、令和7年に迎える戦後80年に向け、平和関連事業の総合サイトである、「(仮称) デジタル平和資料館」の開設を検討することといたしました。これにより、戦争の記憶を風化させることなく、多くの尊い人命と幸せな生活を奪い去る戦争の悲惨さと平和の大切さを、次世代に継承していくことを目指していきます。

千葉市の発表は以上です。今回ご紹介した事業については、千葉市ホームページ、『平和都市 千葉市へようこそ』でもご覧いただけます。QR コードを読み込んで、ぜひご覧ください。ご清聴ありがとうございました。